



http://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/kyodo/kyodo_top.html

編さん便り

千葉市史編さん担当

〒260-0856

千葉市中央区亥鼻 1-6-1

千葉市立郷土博物館

TEL 043-222-8231

Chiba-shishi News Letter NO.3 2009.8



ぞいてみよう

第二回 旧生浜町役場

明治12年(1879)、北生実・南生実・有吉の三か村の戸長役場が北生実に、浜野・村田の二か村の戸長役場が浜野に設置されました。同17年には五か村が連合し、北生実に連合戸長役場が置かれます。のち五か村は合併して生実浜野村となり、同40年(1907)には庁舎が浜野に移転、これは昭和8年(1933)に現在ある新庁舎が落成するまで使われました。この新庁舎は平成6～7年にかけて改修されたものの、基本的にはすべてが町役場として使用されていたころのままの姿をとどめ、生浜支所・生浜地区市民センターなどの変遷を経て、平成4年(1992)まで使われていました。一階部分には事務室・町長室などがあり、現在は展示スペースとして、常設で漁具・農具・生活用具の展示を行っています。二階部分は町議会室・議員控室が当時のままの形で残されています。この旧生浜町役場庁舎は千葉市指定文化財に指定されています(*1)。

現在役場の維持管理業務にはNPO法人ちば・生浜歴史調査会があたり、地域の歴史についての研究活動を行っています。また「生浜地域誌」を発行し、活動の内容や現在調査中の史料・民具などの紹介とあわせて、地域の人々へ史料情報の提供を呼びかけています。昨年度には千葉市南部を題材とした「郷土カルタ」



事務室：写真左手に創建当初のドア付き電話室が残されている。現在漁具・農具・生活用具の展示スペースとして利用。



を作成しました。これは、平成2年に白井三郎氏(*2)が作成した「ふるさとかるた」に椎名・おゆみ野地区を加えて改定増補したもので、当該地域の歴史を網羅したガイドブックとしても有用です。カルタを用いて地元の小学生や子ども会とのカルタ会などのイベントや、歴史講座の開催といった活動を通して世代間の交流も広がっています。



史料の散逸・消失が懸念される昨今、こうした地域の有志による活動によって新たにわかる事実は貴重なものであり、そうした意味で、旧生浜町役場でのNPO法人ちば・生浜歴史調査会の果たす役割は大きいといえます。また、世代間の交流の場となっていることから、地域の歴史を少しでも多く後世に残していくために、非常に有効かつ重要な存在です。

*1 参考：『千葉市文化財旧生浜町役場庁舎修復工事報告書』(平成9年 千葉市教育委員会)

*2 昭和50年(1975)頃組織された生浜郷土史研究会の主要メンバー。平成元年には「生浜を知ろう(生浜ふるさとカルタ)」を発行している。



議会室：写真奥中央は演壇。明治22年(1889)当時、10人だった村会議員数に合わせて机や椅子が並べられている。当時使われていたものも残されている。写真左手壁面には歴代村長・町長の写真が飾られている。

旧生浜町役場へは… JR内房線浜野駅より徒歩約15分

企画展

千葉市の戦国時代城館跡

— 千葉市史編纂40周年 —

期間：平成21年11月25日(水)～平成22年4月11日(日)

戦国時代の千葉は、この地の支配者千葉氏を中心として、上総の武田氏や安房の里見氏、小弓公方となる足利義明、そして小田原の北条氏などが入り乱れて、繰り返し行われた抗争の舞台となっていました。



生実城跡出土遺物

今回の企画展は、千葉市の中世の城館跡に関する資料を中心に展示することにより、多面的で豊かな内容を持った千葉市の戦国時代の実像に迫ります。

展示資料(予定)

考古資料：生実藩蔵屋敷跡・生実城跡・高品城跡・猪鼻城跡・南屋敷遺跡・土気城跡等の出土遺物および発掘調査写真など

古文書等：原文書・本行寺文書・本土寺過去帳(レプリカ)・酒井胤治書状(河田文書)・浜野村絵図・宗長像写真(柴屋寺)など

会場：千葉市立郷土博物館 2階展示室



ぞいてみよう

三山の七年祭

今年は七年に一度、丑と未の年の秋に行われる「三山の七年祭(二宮神社式年大祭)」の年です。

二宮神社・八王子神社(船橋市)・子安神社・子守神社・三代王神社(千葉市)・菊田神社・大原大宮神社(習志野市)・時平神社・高津比咩神社(八千代市)の九社が参加するこの祭りは、平成15年度に千葉県無形民俗文化財に指定されました。祭りは三山の大祭と幕張の磯出大祭の二つで構成され、各神社が夫役・妻役・子守役・産婆役などの役割を与えられた安産の祭りとして知られています。夜半より行われる磯出祭では、地元の子守神社を中心とした四社の御輿渡御完了後、出産の儀式・産屋の儀式が明け方まで行われます。現在のような形になったのは享保期といわれています。海岸線の埋立・開発により儀式に若干変化は見られますが、現在まで続けられています(今年は11月22・23日の予定)。



千葉市の歴史に関わる資料を探しています!

市史編さん担当では、千葉市の歴史に関わる資料を探しています。皆さまのお宅に古い文書や写真などございましたら、ぜひ市史編さん担当(TEL 043-222-8231)までお知らせください。また、現在、近現代編の刊行に向けての聞き取り調査も行っています。戦時中や戦後の体験など、貴重なお話をぜひお聞かせ下さい。



初級古文書講座と受講して

受講の動機は、たかが日本語なのだからという安易な気持ちが、今や古文書のジャングルに迷ったようです。

初級といえども受講者側に学習レベル差がかなりあったにもかかわらず、初学者の視点で講義していただけたことは大変ありがたかったです。板書でのくずし字の成り立ちや言葉の説明、音読で読み下しの確認等、丁寧な講義でした。私は丁寧すぎる位の説明にポイントがありと思い、そのつもりで聞いている所に、前回ポイントの「たしかめ練習」があり、これは有効打でした。「たしかめ練習」集にして後の学習に役立ちます。受講時間も2時間位、全5回は適当です。また受講初回に全資料及釈文の一括配布は以後の受講への安心感がありました。一方、釈文を講義後に配布もありかなとも思いました。

古文書修得に早道はないと思い、同好会に属し古文書の発信する歴史をと願っています。

(H20年度初級講座(前期)受講者 遠藤益夫氏)

あとがき

ちば市史編さん便り3号をお届けします。

今回は、市史編纂40周年ということで、関係の深いお二人の先生の対談を掲載しました。冒頭では、旧生浜町役場とNPOの活動を簡単に紹介しています。地域に残る歴史的資料をどう活用していくか、とても参考になる事例であると思います。

また、11月からは市史企画による展示を行います。多くの方のご来場をお待ちしています。